

学年	教科等	題材名	日時
第6学年	家庭科	生活を豊かにソーイング	令和6年2月9日(金)

1 本時の目標

布袋にはゆとりが必要であることに気づき、自分の目的に合った布袋の形や大きさについて自分の考えを表現することができる。

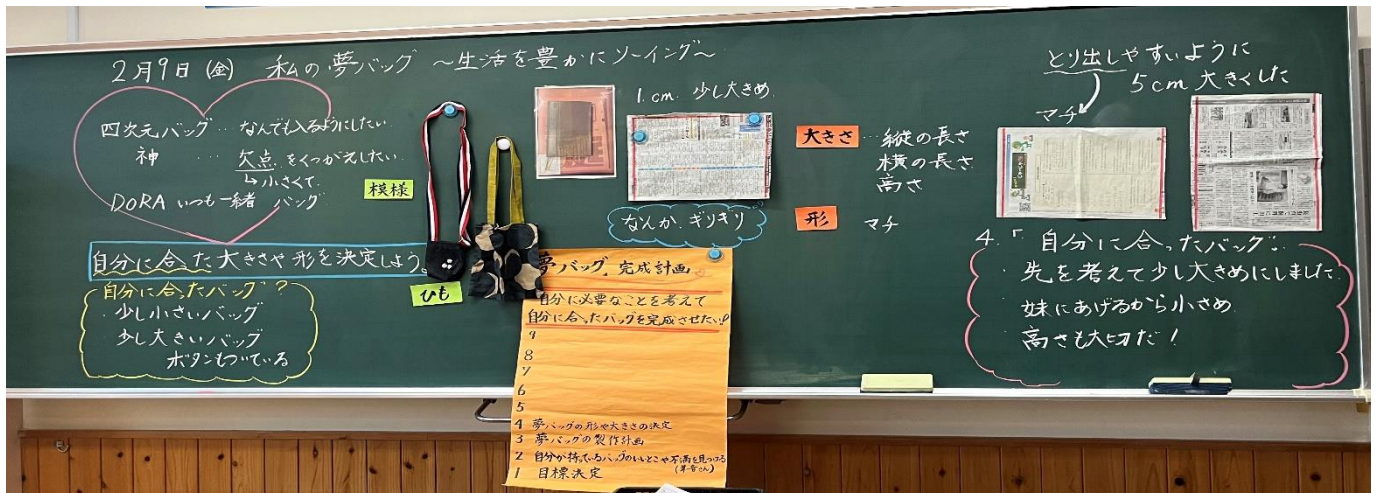
2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 つくりたい布袋についての思いを共有し、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ つくりたい布袋 <ul style="list-style-type: none"> ・「遊びに行くときに、財布やシール帳が入る靴をつくりたい。」 ・「塾に行くときに、たくさんの参考書が入る丈夫な靴をつくりたい。」 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の目的に合った布袋の形や大きさを決定しよう。</p> </div> <p>2 自分の目的に合った布袋の形や大きさを決定し、ゆとりの必要性について全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の目的に合った布袋の形や大きさ ○ ゆとりの必要性（使いやすさ） <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりがないと使いにくいな。」 ・「ゆとりがあると取り出しやすいな。」 <p>3 自分の目的に合った布袋の大きさを見直し、仲間とアドバイスをし合いながら、再決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間との対話（例） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A「僕は本を入れたいんだけど、この大きさはどうだろう。」</p> <p>B「私だったら本があまり動かないような大きさにしたいから、もう少し小さくするよ。でも出し入れしやすい方がいいね。」</p> <p>A「Bさんはどうして、本があまり動かない方がいいと思うの？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 再決定 <p>4 再決定した布袋の形や大きさとその理由について考え、仲間に伝える。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 再決定した布袋の形や大きさとその理由 <ul style="list-style-type: none"> ・「僕は本を入れたいです。ゆとりをとることで、出し入れがしやすくなるから本より、一回り大きい布袋をつくりたい。」 <p>5 本時のふりかえりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のふりかえり <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の目的に合った布袋は本がぴったり入るものと思っていたが、取り出しやすくなることも大切だと分かった。」 <p>〈学び方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新聞紙を使って実際に折ったりすると、完成の大きさがイメージしやすくてよかった。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「全員がこの大きさにしましょう。全員の入れたいものが入るサイズですね。」と子どもの思いを制限する提案をすることで、自分に合った布袋の形や大きさにしたいという思いをもつことができるようにする。 ○ めあてを設定した後に「あなたの目的に合った布袋とはどのようなものですか。」と問い、考えさせることで、自分の目的に合った布袋のイメージが曖昧な状態であることに目を向けることができるようにする。 ○ 入れたいものにぴったりと合う形や大きさにしている子どもが多いことが予想されるため、家庭から実際に入れたい物を持って来させておくことで、布袋の具体的な大きさを考えることができるようにする。 ○ 入れたいものとぴったりと合う形や大きさに決定している布袋を提示し、実際に物を出し入れしてみることで、使いにくさに気づき、大きさを見直したいという思いをもつことができるようにする。 ○ 仲間とアドバイスをし合う前に「2」で出た、「使いやすさ」という視点を確認することで、相手の立場に立ちながらより使いやすい形や大きさについて考えることができるようにする。 ○ 途中で困っている子どもがいた場合には、困っていることについて全体で共有し、アドバイスし合う場を設けることで、目的に合った布袋の形や大きさを考えることができるようにする。 ○ 「あなたの目的に合った布袋とはどのようなものですか。」と再度問い、考えさせることで、「2」や「3」を基に、自分の目的に合った布袋について吟味することができるようにする。 ○ 内容のふりかえりだけではなく、学び方のふりかえりを行うことで、これからの自分に合った学び方について考えることができるようにする。

3 本時の評価規準

物を取り出しやすくしたり、使いやすくしたりするためには、ゆとりが必要であることに気付き、自分の目的に合った布袋の形や大きさについて自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)【記述分析・発言分析】

4 板書



5 指導講評

宮崎大学 伊波 富久美 教授

- 自分に合ったバッグを作りたいと思っている子どもが、新聞紙を使って形や大きさを決定していくことはとても有効である。布ではなく、新聞紙だから間違えることができる。また、形や大きさを決定していくなかで、大きさには、横の長さ・縦の長さだけではなく、厚さが必要であることを実感することができる。このように、形や大きさを決定していく過程が、バッグに対する愛着に変わっていく。

宮崎県教育研修センター 竹野 弥生 指導主事

<家庭科における製作活動について>

- 今の時代は、欲しい物があつたらすぐに手に入る時代である。バッグにしても、ほつれたり飽きたりすると、すぐに新しいバッグを購入できる。私は、母から作ってもらったバッグを長年使い続けている。母の思いや、その時の嬉しさを今でも感じる事ができる特別なバッグである。そこに、家庭科の製作の意味があると考え。必要な物を作ることができるだけではなく、そこに思いがあるからこそ豊かになると考える。家庭科の製作では、これからもこのようなことを大切にしてほしい。

<研究主題について>

- 「自律的に学ぶ」子どもの育成は、これからの時代にとっても重要である。大人に言われたからやるのではなく、自分の思いや願いの実現に向けて行動できる子どもの育成について今後も追究してほしい。

6 考察

- 実際に、バッグに入りたい物をもってきただけで形や大きさを決定していったことで、どのくらいの大きさがよいのか具体的に考えることができた。また、決定していく過程で、入りたい物が入らないという場面を共有することで、大きさには、横の長さ・縦の長さだけではなく、厚さが必要であることに気付かせることができた。
- 本時のはじめに、「自分に合ったバッグとは？」と問い、「考えたことなかったな。」「少し大きめのバッグ？」等の曖昧な状態を共有したことが学びの視点となり、本時の終わりに「自分に合ったバッグとは？」と問うと、全員が「長く使いたいから、少し大きめにしました。」のように自分の考えを表現することができた。それは、子どもが授業はじめの視点を基に、学びを進めることができていたからだと考える。
- 本時は、大きさを決定していく際に、定規を活用した。そのため、平面で捉えてしまっている子どもが多く、厚さに目を向けることができていない子どもがいた。メジャーを準備しておくことで、立体的に捉えることができ、活動がスムーズにいったと考える。子どもが、何を使ってどのように学ぶのかについても今後追究していきたい。